

## インドネシア・バリ島の伝統的酒づくりにみる生業戦術

## Subsistence Tactics of the Traditional Alcoholic Beverage Making in Bali, Indonesia

山崎 真之 (Masayuki Yamazaki) 指導：余語 琢磨

## 1. はじめに

本研究では、島東部カランガスム県の村落地域で行われている酒づくりの事例を中心に扱う。在地酒の醸造の担い手、流通、消費のあり方は、人々の生活とともに大きく変容しつつあり、その背景には観光開発の問題があると推測される。加えて、醸造は農業問題、流通は行政・法制度と密造酒の存在、さらに消費は人々の生活水準と深く関連していると考えられる。本研究は、在地酒をめぐるこれらの変容の詳細と、現在のバリ島が抱える社会的問題との関連性を明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究概観

バリ島を対象とした酒づくりや飲酒行動を取り扱った研究報告は限られ、さらに、なぜ彼らが酒をつくるのかという点に着目し、「生業戦略としての酒づくり」まで踏み込んだ分析はなされていない。本研究において、現代バリ島の社会・経済動向と酒づくりの変容との関連性を、酒をつくる人の視点から描き出そうとするこの意義と独創性は、十分に認められるものと思われる。

## 3. 伝統的酒類の醸造工程と新しい酒づくり

醸造者が酒づくりに携わるおもな要因として、居住地の環境や伝統的土地所有のあり方を指摘することができる。バリ島の農業は稲作を中心とするが、醸造の盛んな集落は、水利の便が悪い山間地や尾根部に多い。多くの醸造者は、他の恒常的な収入源をもつことが少なく、彼らにとっての酒づくりは家計を支える重要な生業となっている。

従来の酒づくりと異なる性格をもつものとして注目すべきは、サラックアラックとメンテアラックへの取り組みである。酒の原料に用いられることのなかった農産物であるサラックやメンテを発酵・蒸留して生産したアラックであるが、この地産地消による新たな商品開発の事例といえる。

## 4. 在地酒の販売・流通

バリ島東部の諸農村で醸造される「密造酒」は、県域を超えてバリ島内に広く流通している。密造酒は、運搬中に取り締まりを受ける可能性が高い。醸造者は、その危険性を極力回避しようと試みるが、万が一取り締まりにあっても、賄賂を渡すことにより見逃してもらう努力をする。

島内の都市化した市街地に職を求める人の中には、出身の村で醸造される酒を市街地域へと流通させることで、生

計をたてる者もいる。ただし一般的には、安易に情報をもたらしたくないため、流通に外部の人間を介さないことが多く、血縁・地縁による安全性が高いネットワークを用いることで対処している。

## 5. 酒の社会的コンテクスト

生活水準の向上とともに、若者を中心として職業意識も変化している。従来酒づくりが盛んであった地域では、後継者不足も衰退の一因となっている。代わってアラック醸造者が増えている地域でも、若者というよりは、中年以上を中心とする。

新規参入者の多くは、酒づくりに現金収入拡大の手段を見出している。技術の容易さに加えて、個人または家族単位で行えるため参入の垣根が低い。それゆえ、市街地域で仕事を得られず、帰村して酒づくりにより生計を維持する醸造者の姿がみられる。一種のセーフティネットとしても機能しているのである。

## 6. 考察

バリ島の「文化観光」は、地域共同体を基盤とするバリ文化の上に成り立っている。観光資源としての文化を維持するためには、地域経済や農業の活性化が課題となっている。農業発展に関しては、収穫後の加工に関する島民の知識や経験が欠如し、改善が望まれている。サラックアラックとメンテアラックにみる新たな酒づくりへの取り組みは、この点で、注目すべき生業戦術である。

酒づくりは、地理的な条件と、所得の問題から、教育水準が低く職業訓練を受けられなかった人々の受け皿のひとつであった。彼らは、観光客にとって魅力あふれるバリ島の影のなかで、生計を維持している。近年の在地酒の需要増加に伴い、新たな生業としてアラックづくりに取り組み、確実に現金収入の増大を図るづくり手の姿は、柔軟でたくましい。しかしながら同時に、多くの醸造者は、周囲の妬みを避けるレベルの利益追求を求め、短期的な見通しで生計をたてている。

現代バリ島の社会変容のなかで、生業選択への柔軟性が高まった彼らにとっての酒づくりとは、その時々適切かつ選択可能な生業であるがゆえに、また短期的な見通しか持てないともいえる。